

【会員だより】

2つの大学勤務経験からのメッセージ

京都第一赤十字病院 放射線診断科部 谷口正洋 (56回生)



皆さま、こんにちは。今回学友だよりへの投稿依頼をいただきました。お題、「2つの大学病院での勤務経験から感じたことなど、30～40代位の後輩にメッセージを」と言うもので、読み物として楽しんでいただければ幸いです。

最初に、自己紹介を少しさせていただきます。専門学校を卒業後、京都大学医学部附属病院 放射線部に採用され33年間、途中大学の理工学部、そして大学院の経営管理研究科(MBA)で学びました。そして信州大学医学部附属病院 放射線部に転籍し6年間在籍。定年退職後1年が経過し、今は京都第一赤十字病院 放射線診断科部で勤務しています。

京大病院では副技師長まで経験し、歴代5人の技師長の元で、診療に関わる管理業務を多く経験させていただきました。院内における医療安全及び感染制御のリスクマネージャを経験し、患者と職員(患者に留まらない)の安全・安心の重要性を理解し、その運用に従事し多くを学びました。その経験からJARTやJSRTにおける医療安全管理委員会や検査説明委員会にも携わることができ実務で得た知識を会員の皆さまにご紹介してきました。

そのまま定年退職と思っていたのですが、長野県信州の地で勤務する機会をいただき、右も左も分からないところからスタートして、京大病院や大学院で学んだ管理スキルを生かし頼もしいスタッフの助けもあり、後輩に引き継げる足跡を残すことができました。その信州在職6年間の掘り下げをご紹介します。

信州大学での技師長就任時に掲げた仕事上のモットーは、「みんなをHappyにする」でした。近江商人の精神「三方よし」ではないですが、患者、病院、放射線部の皆さんがHappyになるかを判断基準とし放射線部を運営しました。少し取り組みを紹介します。

★ 国立大学病院の中で、全国一常勤化率が低い組織の常勤化を進め(6年間で6名の常勤化、常勤化率:51%から61%)に、加えて4名の増員も達成することができました。

常勤化と増員は、関係診療科と連携して人事課に要望し達成できました。診療科にも病院にも放射線部にも貢献できる状況を考慮しました。仕事は増えますが、専門職として責任感を持って対応できています。

★ 長年装置の更新が行われなかったため10年を超える装置のラインナップから、CT装置、透視装置、X線撮影装置の更新、放射線治療装置及び血管造影装置の更新予定(現在更新が進められている)と一新化を行いました。

経営管理課に先ず現状を把握してもらい、病院として整備が必要であると理解いただき、高い精度の診断・治療が行える診療環境の整備ができました。

★ 放射線治療部門と血管撮影部門におけるフレックスタイム勤務体制の導入を行い、超過勤務時間の短縮と健全な職場環境を作ることにつながりました。

★ スタッフの常勤・主任・副技師長への昇任要件を制定し放射線部の人事考課制度を作成しました。

昇任要件の制定・運用は、スタッフが日々努力する取り組みの拾い上げができ、多くのスタッフの頑張りが把握でき、それらをまとめた結果が人事考課につながりました。同時にスタッフの目標設定にもつながっていて、モチベーションの向上になりました。

★ 看護部と連携し、「病棟・外来・放射線部情報共有ワーキンググループ」を立ち上げ検査説明書・検査処置一覧・利用マニュアルの院内一元管理を行いました。

各種資料の一元管理の達成ができたことはもとより、看護部と放射線部の相互理解がすすみ協働する習慣ができました。

以上、一部を紹介しましたが、これらは一人ではできないことなく、多くの職種やスタッフで取り組むことで達成できたと思っています。放射線部スタッフの皆さんが組織として動くことで個人では成し得ない結果につながり、ワンステップ上のステージで運用できる組織に押し上げることができました。

あるとき当時の病院長とお話する機会があり、「谷口さんは面接時にみんなをHappy・・・にと言っていたね、良い言葉だね！」と言われ覚えてくれたことを嬉しく思いました。

一方で生活上の目標は、「仕事の達成、信州を満喫、そして単身赴任でしたので自立する」でした。仕事のことは当たり前ですが、2つ目の信州満喫は、時間を見つけてはあちこちに出かけました。京都に戻ってからも観光地や穴場スポットを紹介できる信州観光大使を自負しています。

3つ目の自立は、料理に少し興味があり自炊をしようと思っていたところへ、信州の友人の娘さんに、「3週間つづけると習慣になるから・・・」と言われて単純な私は一日3食を作り始め、6年間継続し、今では冷蔵庫を覗いて何を作ろうか考え料理ができるようになり、信州の地で自立することも叶いました。

もう一つ伝えたいことがあります。赴任当初、信大病院の皆さんに受け入れてもらえるように、「誘われたら断らない」を心がけていました。食事に行きましようか？はい！常念診療所登山に登りましようか？はい！昼休み時間帯のテニスに誘われては、はい！マラソンに出ましようか？はい！知らない人達、初めての経験ばかり、ワクワクドキドキもしましたが、多くの人達と関わることができ、今では楽しい思い出ばかりです。ここでの繋がりが、仕事で困ったときは助けていただき、相談に乗っていただき、信州一人ボッチではなく、仕事のパートナー・相談相手・友人を沢山得ることができました。

今から思えば、見知らぬ地で積極的に物おじすることなく前へ踏み出すチャレンジ精神の結果、仕事もプライベートも充実したものとなりました。この経験は私の性格を一変させました。元々は人前には出ない消極的な性格でしたが、今では繋がるのが大好きで誰とでも何時間でも話し続けられる(人見知りもありますが)前向きな性格へと変貌しました。役職は人を創ると言いますが、人はある機会に思ってもみない性格に変化することができると思っています。30～40代位の後輩をはじめこの記事をお読みいただいた皆さま、一歩前に踏み出して前を向いてチャレンジしましょう。きっと素晴らしい人生が待っています。



2016年常念診療所登山、登頂時の記念撮影
参加者は医師、看護師、そして信大医学部生たち（左から3人目が院長）



紅葉にまつまれる湿沢カールへ向かう登山道（前を歩く登山者もワンポイントに）



北アルプスの女王と呼ばれる湯森と蒸山荘



最終章 6年間つづけた自炊の成果



安曇野ハーフマソン3回連続出場、信州人学事務の楽しい仲間と共に（この後BBO）

以上